

豪雨に起因する流木発生量評価モデルの開発

津末, 明義

<https://hdl.handle.net/2324/6787584>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士 (工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	津末 明義			
論文名	豪雨に起因する流木発生量評価モデルの開発			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	矢野真一郎
	副査	九州大学	教授	笠間清伸
	副査	九州大学	教授	山城賢

論文審査の結果の要旨

本論文は、河川流域において大規模水害が発生した際に被害を拡大する流木について、斜面の地形・地質・被覆状況を素因に、累積降雨量を誘因にして、斜面崩壊の発生可能性を評価し、それを元に発生流木量を評価可能な統計的モデルを開発したものである。この研究成果は、これまで水と土砂の総合管理に注力してきた河川管理において、新たに流木の総合管理を可能とする手法として提案できる有益な知見であり、河川工学や防災工学の分野で寄与するところが大きい。よって、本論文は博士（工学）の学位論文に値すると認める。